



TNFD v1.0の概要紹介

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《ベーシック編》
第2回 自然関連の依存・影響・リスクの分析に活用できるツールの紹介・実践

2023年10月31日



1. 全体像
2. 各種ガイダンスについて
3. ベータ版0.4からの主な変更点

1. 全体像
2. 各種ガイダンスについて
3. ベータ版0.4からの主な変更点

1

全体像

2023年9月18日にTNFD最終提言v1.0が発行

- ▶ ガイドランスの全体構成：TNFD開示提言に関する全般的なガイドランス（および概要版）をベースとして、追加ガイドランスが7個、ディスカッションペーパーが3個公表された、セクター別ガイドランスは現時点で金融機関向けのみ

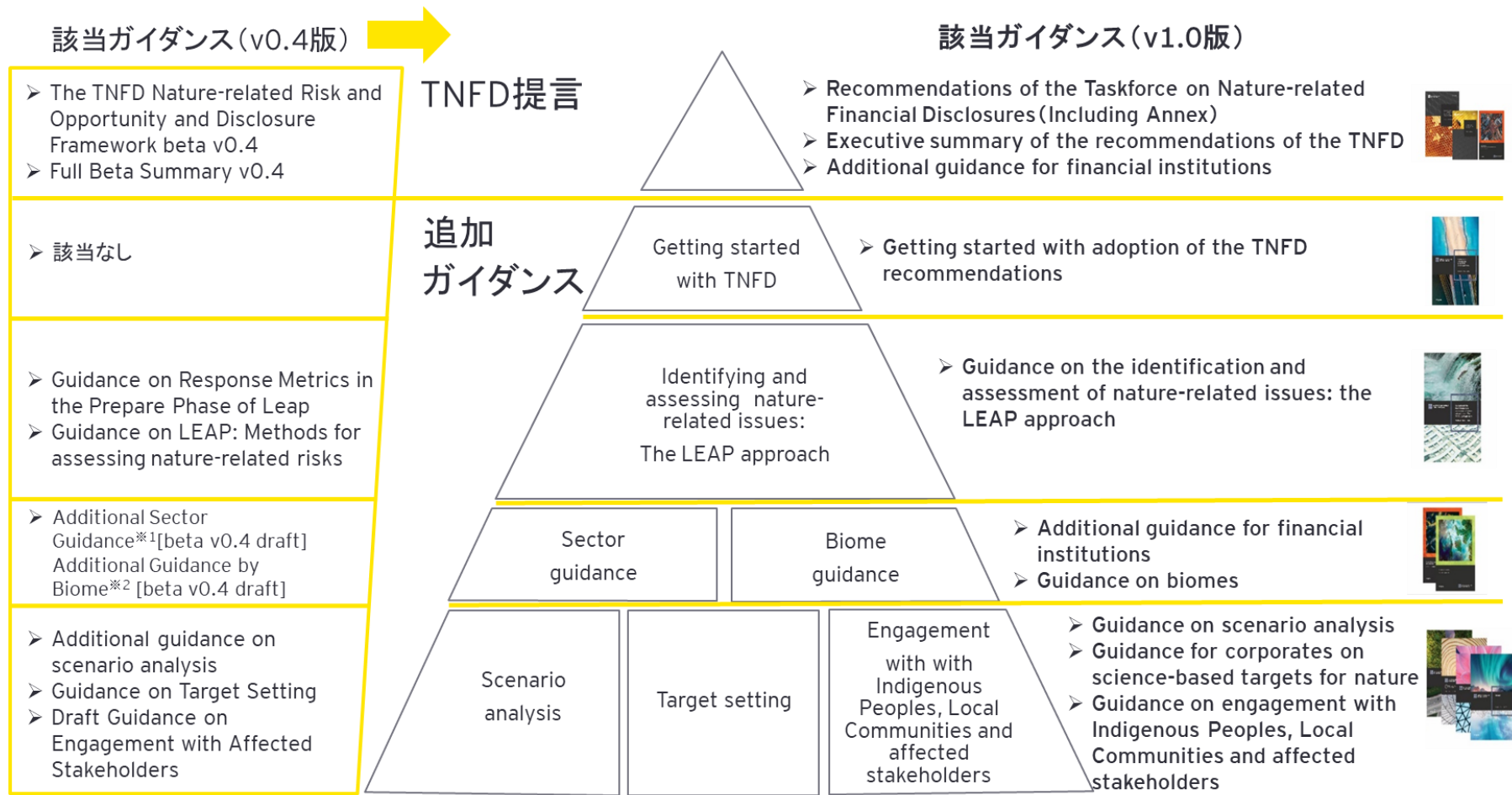
ガイドランスの構成要素	概要
Getting started with adoption of the TNFD Recommendations	<ul style="list-style-type: none"> v1.0で新規導入されたガイドランスであり、TNFDをスタートする上で考慮すべき主要ステップと、TNFDの4つの柱に沿った評価および開示を準備するための実務的な対応方法が記載されている
TNFD開示提言 Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures	<ul style="list-style-type: none"> TNFD開示提言の解説および追加ガイドランスの概要、自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の測定について記載されている、附属書では、開示指標の例が示されている
LEAPアプローチ追加ガイドランス Guidance for identifying and assessing nature-related issues (the LEAP approach)	<ul style="list-style-type: none"> TNFDにより開発された自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ（LEAPアプローチ）のステップごとの解説がされている
バイオーム追加ガイドランス Guidance on biomes	<ul style="list-style-type: none"> 特定の種類の生態系（バイオーム）における自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の特定、評価、開示について記載されている
SBTs for Nature追加ガイドランス Guidance for corporates on science-based targets for nature	<ul style="list-style-type: none"> Science-Based Targets for Nature（SBTs for Nature）設定のための5つのステップについて、概説および各ステップで必要となるデータ要件等について説明している
シナリオ分析追加ガイドランス Guidance on scenario analysis	<ul style="list-style-type: none"> シナリオ分析の手法として、参加型ワークショップ主導の4段階のアプローチについて解説がされている
ステークホルダーとのエンゲージメント追加ガイドランス Guidance on engagement with Indigenous Peoples, Local Communities and affected stakeholders	<ul style="list-style-type: none"> 自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の評価と管理に関連する、企業や金融機関による先住民、地域コミュニティ、影響を受けるステークホルダーとの有意義なエンゲージメントに関するガイドランス
注目ポイント	概要
LEAPアプローチの主要変更点	<ul style="list-style-type: none"> （スコーピング）フェーズの簡易化、（Locate）自然の依存・影響の中・高程度におけるスコーピングの実施およびセクター・バリューチェーン・地理的位置の3つのフィルターの追加、（Evaluate）マイナス・プラス影響の分析実施、（Assess）リスクと機会の管理プロセスと関連要素の適合
TNFD開示項目の主要変更点	<ul style="list-style-type: none"> 「リスクと影響の管理D」が削除され、「ガバナンスC」が追加された

1

全体像

TNFD開示提言に関する全般的なガイダンスを三角形の頂点とし、その下を詳細な追加ガイダンスによって補強する形となっている

- v1.0からの新たなガイダンスとして「Getting started with TNFD」が発行され、他ガイダンスはベータ版v0.4から最終化されている。



※1 Power, utilities and renewable energy/Oil and gas/Mining and metals/Food and agriculture/Financial Institutions

※2 Rivers and streams/ Tropical-subtropical forests/Marine shelves/Intensive land-use Systems

出所 : Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures ([Recommendations of the Taskforce on Nature related Financial Disclosures September 2023.pdf \(tnfd.global\)](https://www.tnfd.global/recommendations-of-the-taskforce-on-nature-related-financial-disclosures-september-2023.pdf)) を基にEY作成

1

全体像

ISSBやTCFDなど他のグローバル基準のアプローチと整合性が取れていることを強調している

- ▶ TNFD開示提言は、4つの概念的な基礎、6つの一般的要求事項、開示提言（4つの柱）、14の開示推奨事項から構成されており、これらに関連するガイダンスが発行されている。
- ▶ これらは、ISSBやTCFDのアプローチを参考に作成されたものであり、整合性がとれていることが強調されている。
- ▶ また、GRI（Global Reporting Initiative）などの基準との言語や構造、アプローチとの整合性や、GBF（Global Biodiversity Framework）のゴール及びターゲットとの一致についても強調されている。



1. 全体像
2. 各種ガイダンスについて
3. ベータ版0.4からの主な変更点

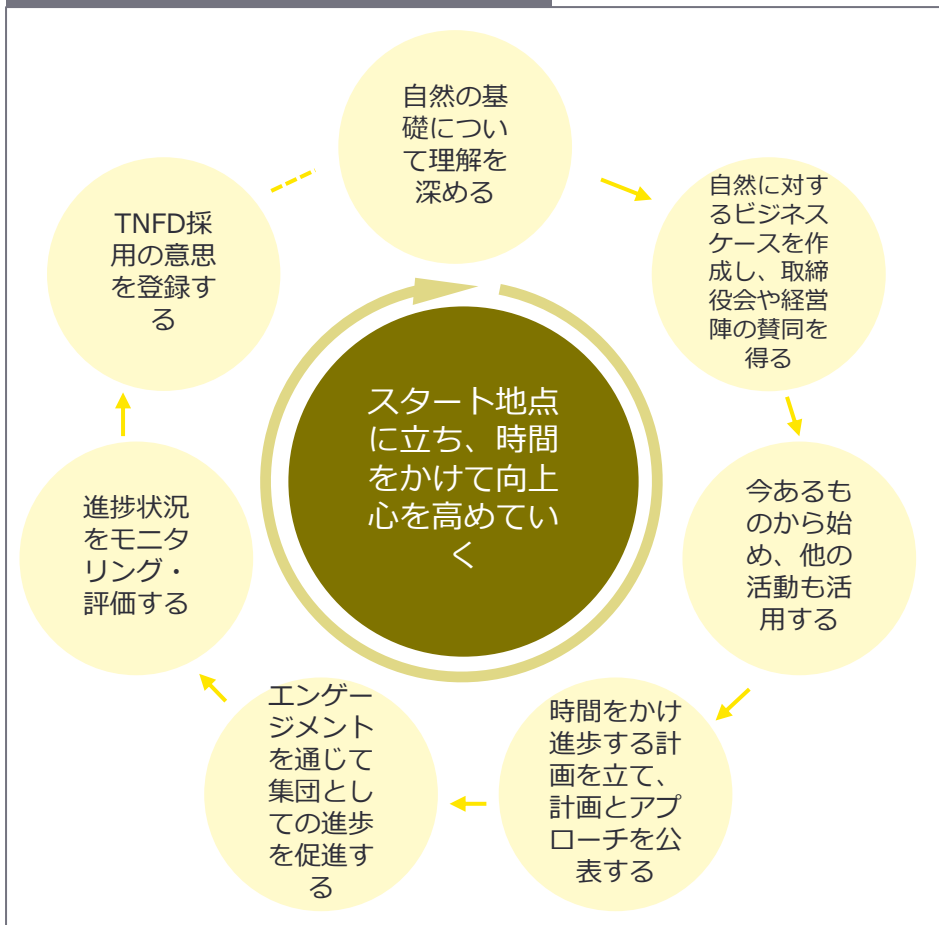
2

各種ガイダンスについて

Getting started with adoption of the TNFD recommendations

- 本ガイダンスでは、TNFD導入には複数の経路があるが、最初の一步を踏み出すことが重要であり、TNFDをスタートする上で考慮すべき主要ステップと、TNFDの4つの柱に沿った評価および開示を準備するための実務的な対応方法が記載されている。

考慮すべき7つの重要ステップ



- TNFDウェブサイトでは、まずは6つの方法にアクセスしTNFD活動をはじめるとを提示している。

表 TNFDをスタートするための6つの方法

方法	概要
TNFD開示提言	サステナビリティレポートのグローバル基準と整合がとられ、GBFのゴールとターゲットにも沿った14の開示提言
追加ガイダンス	Guidance for corporates on science-based targets for nature、Guidance on scenario analysis 等
TNFDフォーラムへの参加	TNFDフォーラムメンバーとなることで、様々なリソースや学習の機会を得ることが可能
ナレッジハブ	自然関連問題に関するリソースやウェビナー、学習資料等のコレクション
ツールカタログ	自然関連問題の開示や評価に役立つツールやデータセットのカタログ
採用意思の登録	TNFD提言を採用する意思の登録

出所 : [Getting started with adoption of the TNFD recommendations](#), September 2023, TNFDを基にEY作成

出所 : [Getting started with the TNFD Recommendations - TNFD](#)

2

各種ガイダンスについて

Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures(1/2)

- 本ガイダンスでは、TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）の解説および追加ガイダンスの概要、自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の測定（測定指標と目標）について記載されている。
- 冒頭では、気候変動リスクと環境リスクは、世界の経営陣が対峙する今後10年間で最も重大なリスクとして認識（世界経済フォーラム）しているにもかかわらず、依然として、ほとんどの企業、投資家、金融機関は、自然に関する依存関係、影響、リスク、機会を理解しておらず、戦略や資本配分の決定において自然を十分に考慮していない点を指摘している。また、TNFD開示提言は、企業が本課題に取り組むための一助となることを示唆している。

表 TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）

ガバナンス 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。	戦略 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的なインパクトを、そのような情報が重要である場合に開示する。	リスクとインパクトの管理 組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けし、監視するために使用するプロセスを記載する。	測定指標とターゲット 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を評価し、管理するために使用される測定指標とターゲットを開示する。
開示提言	開示提言	開示提言	開示提言
A. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する取締役会の監督について説明する。	A. 組織が短期、中期、長期にわたって特定した、自然関連の依存、インパクト、リスク、機会について説明する。	A. (i)直接操作における自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。	A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、重大な自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。
B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。	B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えた影響、および移行計画や分析について説明する。	A. (ii)上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。	B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用する測定指標を開示する。
C. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に対する組織の評価と対応において、先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。	C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。	B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するための組織のプロセスを説明する。	C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。
	D. 組織の直接操作において、および可能な場合は優先地域に関する基準を満たす上流と下流のバリューチェーンにおいて、資産や活動がある場所を開示する。	C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。	



出所：https://tnfd.global/wp-content/uploads/2023/09/Executive_summary_of_the_TNFD_recommendations_JP.pdf?v=1696317189を基にEY作成

出所：[Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures, September 2023, TNFD](https://tnfd.global/wp-content/uploads/2023/09/Executive_summary_of_the_TNFD_recommendations_JP.pdf?v=1696317189)

2

各種ガイダンスについて

Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (2/2)

- 本ガイドラインの附属書では、コアグローバル開示指標及び追加グローバル開示指標の例が約20ページに渡り示されている。
- TNFDにおける指標は評価指標と開示指標があり、計7つの指標が設けられている。

表 コアグローバル開示指標と自然関連の依存関係、影響に関する指標（一部抜粋）

メトリックNo.	インパクトドライバー	インディケータ	メトリック	GBFターゲットとのつながり
C1.0	土地／淡水／海洋利用の変化	総空間フットプリント	総空間フットプリント (km ²) (合計) : - 組織が管理／管理している総表面積 (km ²) - 攪乱された総面積 (km ²) - 修復／復元された総面積 (km ²) 。	目標1 (A.2自然生態系の範囲)、目標2、目標5、目標11 (B.1生態系サービス)
C2.0	汚染／汚染除去	土壌放出された汚染物質の種類別内訳	汚染物質の種類に関するセクター別ガイダンスを参照した、土壌に放出された汚染物質の種類別 (トン) 。	目標7 (7.2農業環境濃度)、目標11

表 自然への依存と影響に関する追加グローバル開示指標（一部抜粋）

メトリックNo.	メトリックカテゴリー	インディケータ	メトリックの例
A1.0	自然変化の要因：土地／淡水／海洋利用の変化	土地利用強度	土地利用強度 (トンまたはリットル／km ²) 。セクターにより異なる。例えば、農業セクターの作物収穫量 (トン／km ²) 。
A2.0	自然変化の要因：汚染／汚染除去	排水処理、再利用／リサイクル、回避	排水処理量、再利用率、リサイクル量 (m ³) 。技術的または工程の変更の結果、ベースラインに対する排水の減少量 (m ³) 。



2 各種ガイダンスについて

Guidance on biomes

- バイオームとは、熱帯雨林、外洋、砂漠、湖など、世界中の様々な場所に存在する生態系のことを指す。一般的に、平均降雨量と気温のパターンに応じて生息する植物の種類によって定義される。多くのバイオームは複数の領域にまたがっており、多くのビジネス拠点と接点を持つ。
- 本ガイダンスでは、特定の種類の生態系（バイオーム）における自然関連の依存関係、影響、リスク、機会の特定、評価、開示について記載されている。

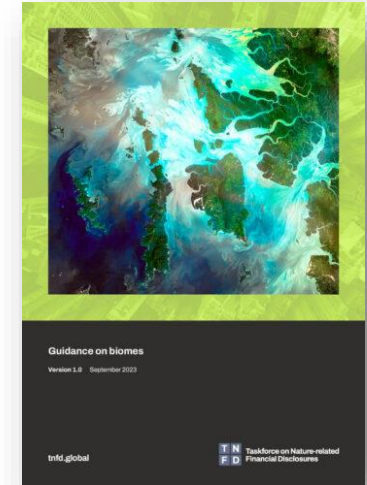


図 自然を理解するための基本的概念の概要

ガイダンスの内容

- ▶ 各バイオームの紹介
- ▶ バイオームおよびそれらが提供する生態系サービスに対するセクターおよび事業活動のマッピング
- ▶ LEAPの各段階におけるバイオームに関する具体的な追加ガイダンス
- ▶ バイオーム特有の影響、依存関係、リスクおよび機会の例示
- ▶ 各バイオームのインディケータとメトリックス
- ▶ 評価に役立つ業界標準やその他のツール、フレームワーク、データソースへの言及

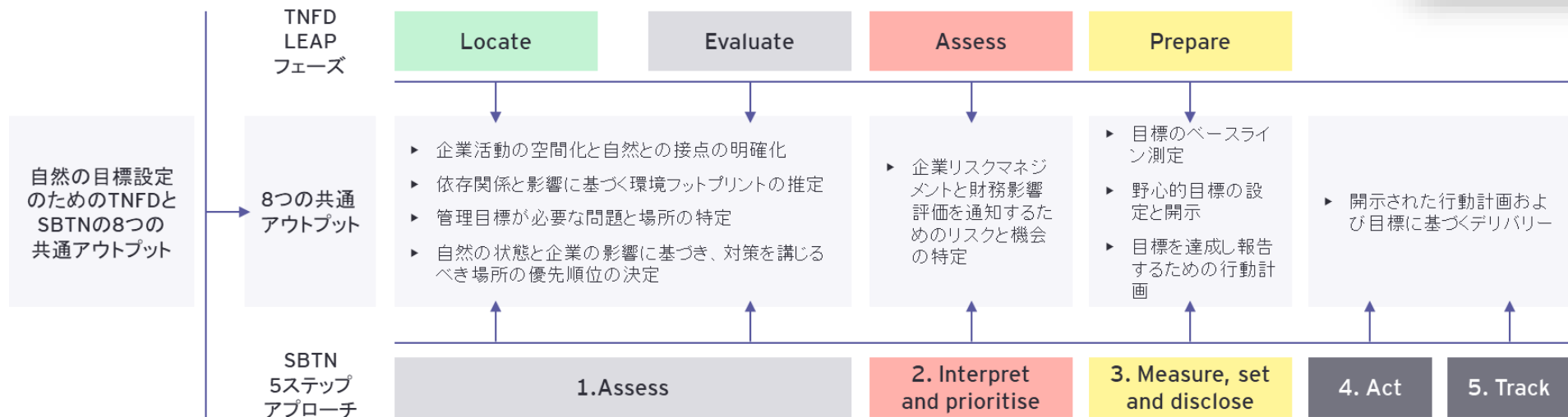
出所 : [Guidance on biomes v1, September 2023, TNFD](#)に一部追記

2

各種ガイダンスについて

Guidance for corporates on science-based targets for nature

- TNFDは、企業がTNFD開示提言を適用して目標を設定する場合、SBTN（Science Based Targets Network)が開発した手法を使用することを推奨している。また、設定した目標に向け行動をとり、進捗と実績を測定することを推奨している。
- 本ガイダンスは、TNFDとSBTN（Science Based Targets Network）の共著となっており、SBTNによる科学的根拠に基づく自然関連目標（Science-Based Targets for Nature ; SBTs for Nature）設定のための5つのステップについて、概説および各ステップで必要となるデータ要件等について説明している。
- SBTs for NatureのSTEP3またはSTEP5まで完了することで、TNFDの開示推奨事項「指標と目標C」に使用できるとしており、またLEAPの各段階のステップは、SBTNの目標設定に役立つとされている。



※TNFD LEAPアプローチとSBTN手法には、8つの共通アウトプットがある。いずれかのアプローチを用いる組織は、これら8つの共通アウトプットを作成することになる。組織がTNFD開示提言を参照またはSBTN手法を使用し報告するために必要なアウトプットは、これらだけではない。

図 目標設定に関するTNFDとSBTNの基本的な一致点

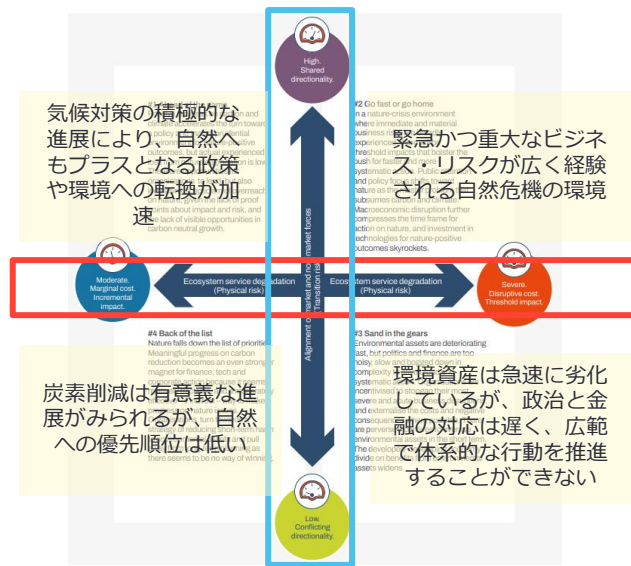
2 各種ガイダンスについて

Guidance on scenario analysis

- シナリオ分析は、TNFD開示推奨項目の「戦略C」およびLEAPアプローチの「Assess」フェーズに該当するリスク評価ツールに位置づけられているが、LEAPのすべての項目に情報提供可能とされている。
- 自然シナリオは気候シナリオと異なり、1.5℃目標のような地球規模の単一的に合意された指標がないため、さまざまな不確実性を説明しながらもっともらしい未来を設定する探索的なシナリオとなっている。（気候のようなバックキャスト型とは異なる）
- TNFDのシナリオへのアプローチは、2つの重要な不確実性「生態系サービスの劣化（物理リスク関連深い）」「市場原動力と非市場原動力の一致（移行リスクと関連深い）」を組み合わせ、2x2のマトリクスで4つのもっともらしいシナリオを検討することができる作りとなっている。



生態系サービスの劣化（物理リスク）軸



市場原動力と非市場原動力の一致（移行リスク）軸

図 TNFDの重大な不確実性マトリクス

- 追加ガイダンスでは、参加型ワークショップ主導の4段階のアプローチについて解説がされており、ワークショップは半日の実施からでも予備的仮説を生み出すことの可能な設計となっている。

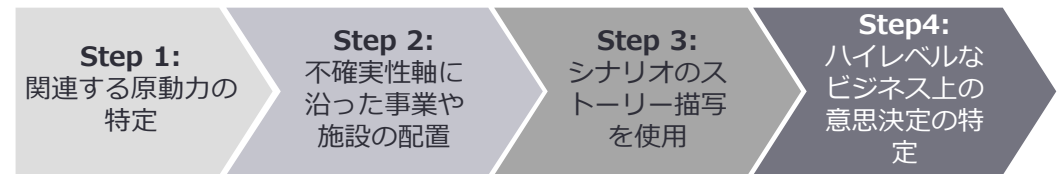


図 シナリオ分析の段階的アプローチ

2

各種ガイダンスについて

Guidance on engagement with Indigenous Peoples, Local Communities and affected

- 自然に関する依存関係、影響、リスク、機会の評価、管理、開示のために、企業や金融機関が先住民族、地域コミュニティ、影響を受ける人々、その他のステークホルダーと有意義な関わりを持つことを支援することを目的に作成されたガイダンス
- このガイダンスによりTNFD開示推奨事項の「ガバナンスC」に対応することとなる



表 ガイドラインの概要

項目	概要
LEAPアプローチにおけるステークホルダーエンゲージメント	LEAPアプローチの各ステップに対して、 重要なステークホルダーエンゲージメントのための質問例が記載されている
誰を関与させるか	先住民族、地域コミュニティ、影響を受けるステークホルダー、少数民族が挙げられ、それぞれの特徴について解説されている
エンゲージメントとデューデリジェンス基準	エンゲージメントは、人権や環境デュー・デリジェンスの一環として、先住民や地域コミュニティ、影響を受けるステークホルダーの権利に対する 統合的なアプローチの下地となる ことが記載されている
エンゲージメントの準備	先住民や地域コミュニティ、影響を受けるステークホルダーと関わる前に、 組織が適切な方針、プロセス、システム、戦略を備えていることが重要 としている
エンゲージメントの設計と実施	影響を受けるステークホルダーとその正当な代表者が特定後、彼らにエンゲージメントプロセスの設計に参加してもらうことができ、組織が自然への依存関係、影響、リスク、機会を評価するために LEAPアプローチを適用する際に特に関連する としている
行動とフィードバックのためのシステムへのエンゲージメント	組織が自然関連課題への対応を準備する際の重要事項について記載されている 組織は、エンゲージメント・プロセスのガバナンスの一環として、 公式で説明責任のある内部プロセスや、コミットメントや合意事項を定期的に追跡・報告する仕組みを設けるべき としている

1. 全体像
2. 各種ガイダンスについて
3. ベータ版0.4からの主な変更点

3 ベータ版0.4からの主な変更点

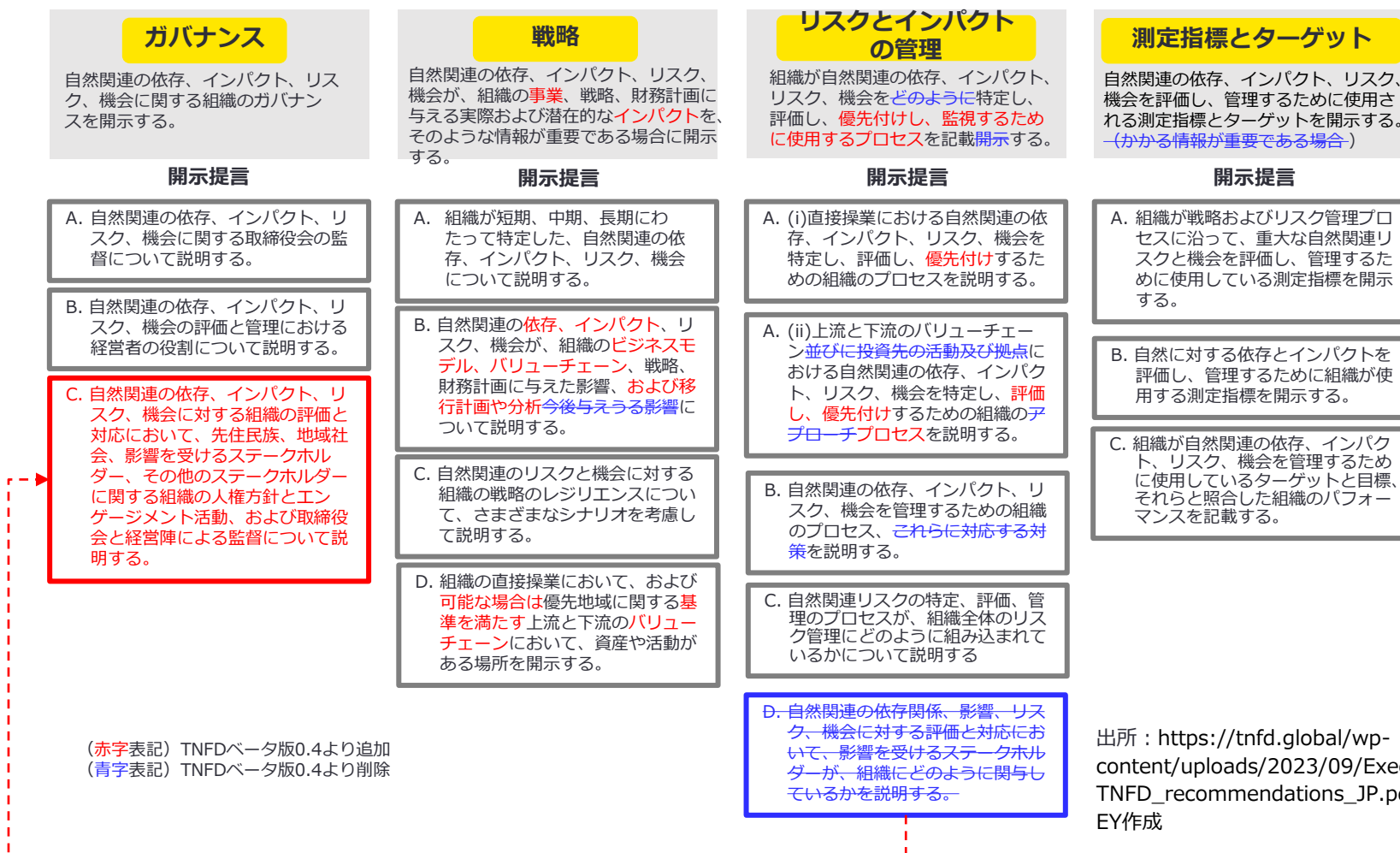
TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）とLEAPアプローチでは、いくつかベータ版0.4から変更があった。

ベータ版0.4からの主な変更点の概要	
TNFD開示提言 (4つの柱と14の開示推奨事項)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リスクとインパクトの管理D」が削除され、「ガバナンスC」が追加された ▶ 「優先付け」や「バリューチェーン」のワードが追加され、ISSB等で使用されている言葉との整合性が強調されている
LEAPアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ LEAPアプローチを通じたエンゲージメントでは、影響を受けるステークホルダーに加え、「先住民民族」、「地域社会」が追加された ▶ 開示提言（ガバナンス、戦略、リスクとインパクトの管理、測定指標とターゲット）とLEAPアプローチの各項目との関係性が示された
	<p>スコーピング</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業会社と金融機関の分けが無くなり、全組織に対するスコーピングが示された ▶ ベータ版0.4のLocateで求められていた地域の優先順位付けが、スコーピングフェーズで要求されている
	<p>Locate</p> <p>優先地域を特定する作業がなくなり、セクターやバリューチェーン、地理的位置の3つのフィルターが設けられ、中程度または高い依存関係と影響を持つ可能性のある活動等にスクリーニングをかけるステップが踏まれている</p>
	<p>Evaluate</p> <p>インパクトドライバーの特定や、組織が自然に与えるマイナスだけでなくプラスの影響が新たに求められた</p>
	<p>Assess</p> <p>リスクと機会の管理プロセスと関連要素をどのように適合させることができるかが新たに求められた</p>

3 ベータ版0.4からの主な変更点

TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）

- ベータ版0.4から開示提言の全体項目数の変更はなかったが、大きな変更点としては、ガバナンスC（自然関連の影響を受けた先住民族や地域社会等に関する組織の人権方針等の説明の要求）が新たに追加され、リスクとインパクトの管理D（ステークホルダーの関与についての説明）が削除された。
- その他、「バリューチェーン」や「優先付け」の言葉が追加される等、開示提言にマイナー修正があった。



3

ベータ版0.4からの主な変更点

TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）：ガバナンスC

- 新たな「ガバナンスC」とベータ版0.4「リスクとインパクトの管理D」との違い
 - 「取締役会と経営陣による監視」が追加されたことでガバナンスCに組み込まれた
 - 「人権」や「影響を受ける先住民族、地域社会」のワードは今回初めて開示提言として表立って追加された

ベータ版0.4（リスクと影響の管理）

D) 自然関連の依存関係、影響、リスク、機会に対する評価と対応において、影響を受けるステークホルダーが、組織にどのように関与しているかを説明する。



v1.0（ガバナンス）

C) 自然関連の依存関係、影響、リスク、機会に対する組織の評価と対応において、**影響を受ける先住民族、地域社会、その他のステークホルダー**に関して、**組織の人権方針と関与活動、取締役会と経営陣による監視**について説明する。

(赤字表記) TNFDベータv0.4より変更



ベータ版0.4「リスクとインパクトの管理D」との違い

1. 「取締役会と経営陣による監視」が追加された（これによりガバナンスCへの移動となったと考えられる）
2. 「人権」や「影響を受ける先住民族、地域社会」のワードは今回初めて開示提言として表立って追加された



ベータ版0.4の「リスクとインパクトの管理D」においても「人権」や「影響を受ける先住民族、地域社会」に関する言及はあったが、v1.0では表立って強調されることで「人権」に対する組織の取り組みの重要性がより一層高まり、これらの取り組みが取締役および経営陣によって監視されていることの説明が必要となった

3 ベータ版0.4からの主な変更点

LEAPアプローチについては、スコーピングおよびLocate, Evaluate, Assessフェーズにおいて、変更があった。

スコーピング

組織の潜在的な自然関連の依存、インパクト、リスク及び機会に関する仮説を創出し、LEAP評価のパラメータを定義し、経営層と評価チームが目標とスケジュールについて一致していることを確認するため、内部及び外部のデータと参考情報源を素早くハイレベルで事前調査すること。

作業の仮説を立てる

組織における重要な自然関連の依存、インパクト、リスク、機会がありそうな活動は何か？

目標とリソースの調整

組織内の現在のキャパシティ、スキル、データのレベル、および組織の目標を考慮した上で、アセスメントを実施するために必要なリソース（財務、人材、データ）と時間配分を検討し、合意する。

発見する (Locate) 自然との接点

L1 ビジネスモデルとバリューチェーンの範囲	セクター別およびバリューチェーン別の自社組織の活動は何か。直接的操業している拠点はどこか。
L2 依存とインパクトのスクリーニング	これらのセクター、バリューチェーン、直接的操業のうち、自然への依存やインパクトが中程度または高い可能性のあるものはどれか。中程度または高い依存とインパクトを持つ可能性のあるセクター、バリューチェーン、直接的操業はどこにあるか。直接的操業や、依存が中程度でインパクトの大きいバリューチェーンやセクターは、どの生物群系や特定の生態系と接点をもっているか。
L3 自然との接点	
L4 インパクトを受けやすい地域との接点	バリューチェーンやセクターにおいて、依存やインパクトが中程度または高い組織の活動のうち、生態学的に影響を受けやすい場所はどれか。また、直接的操業のうち、どの拠点が生態学的に影響を受けやすい場所にあるか。

診断する (Evaluate) 依存とインパクト

E1 環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定	分析対象となるセクター、ビジネスプロセス、活動は何か。どのような環境資産、生態系サービス、インパクトドライバーが、これらのセクター、ビジネスプロセス、活動、評価対象地域と関連しているのか。
E2 依存とインパクトの特定	自然に対する依存やインパクトは何か。
E3 依存とインパクトの測定	自然への依存の規模、や範囲はどの程度か。自社が自然に与えるマイナスのインパクトの重要度はどの程度か。自社が自然に与えるプラスのインパクトの規模と範囲はどの程度か。
E4 重要性のインパクト評価	自社のどのインパクトが重要か。

評価する (Assess) リスクと機会

A1 リスクと機会の特定	自社の組織に関連するリスクと機会は何か。
A2 既存リスクの軽減とリスクと機会の管理の調整	既存のリスクを軽減し、リスクと機会を管理するプロセスと要素で、すでに適用しているものは何か。リスクと機会の管理プロセスと関連要素(例えば、リスクタクソノミー、リスクインベントリ、リスク許容度基準)をどのように適合させることができるか。
A3 リスクと機会の測定と優先順位付け	どのリスクと機会が優先されるべきか。
A4 リスクと機会の重要性の評価	どのリスクと機会が重要であり、TNFDの開示提言に沿って開示する必要があるか。

準備する (Prepare) 対応し報告する

P1 戦略とリソース配分計画	この分析の結果、どのようなリスクマネジメント、戦略および資源配分が決定されるべきか。
P2 ターゲット設定およびパフォーマンス管理	どのようにターゲットを設定し進捗度を定義・測定するのか。
P3 報告	TNFDの開示提言に沿って、何を開示するのか。
P4 公表	自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか。

(赤字表記) TNFDベータv0.4より変更及び新設

先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダーとのエンゲージメント

シナリオ分析



TNFD v1.0の概要紹介

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《ベーシック編》

第2回 自然関連の依存・影響・リスクの分析に活用できるツールの紹介・実践

2023年10月31日

受託者：EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 EY新日本有限責任監査法人